

ひょうごネットトラブル防止ワークショップ スマホサミットinひょうご2022

報告書



公益財団法人
兵庫県青少年本部
Hyogo Youth Services Administration

事業概要

兵庫県では、県内すべての人々が青少年のインターネット利用に関する基準（ルール）づくりを支援する努力義務やフィルタリング利用・有効化措置の原則義務化を青少年愛護条例に規定するなどして青少年のインターネット利用対策に取り組んでいる。

その一環として、安全・安心なインターネット利用を青少年が自ら学び、考えるためのワークショップを開催し、その活動成果をスマホサミットで発表することで、大人と子どもがともに考え、学び、取組の輪を広げる機会とする。

1 成果目標

- (1) 青少年が安全に安心してインターネットを利用するために必要となる視点等を学ぶワークショップを開催し、自分ごととして捉えるとともに、他団体の参加者との討論の中で多様な意見に触れる機会を提供する。
- (2) 安全・安心なネット・スマホの使い方や効果的なルールづくりのポイントなどワークショップを踏まえた各団体での取組を共有するとともに、各団体で考えたネット・スマホに関する提言を題材に公開討論会を開催することで、大人と子どもが一緒になって考える機会を提供する。

2 日 程

- | | | |
|------------------------|---------------|-------------|
| (1) 第1回ワークショップ | 令和4年10月9日(日) | 13:30~16:00 |
| (2) 第2回ワークショップ、スマホサミット | 令和4年12月11日(日) | 9:30~16:00 |

3 場 所

- | | |
|------------------------|-----------|
| (1) 第1回ワークショップ | 兵庫県学校厚生会館 |
| (2) 第2回ワークショップ、スマホサミット | 神戸市教育会館 |

4 対 象

県内に在住、在学の小学生、中学生、高校生 30名程度

5 主催者等

主 催 (公財)兵庫県青少年本部、兵庫県
共 催 青少年のネットトラブル防止大作戦推進会議

6 参加者

- | | | |
|------------------------|-----|-----|
| (1) 第1回ワークショップ | 6団体 | 28名 |
| (2) 第2回ワークショップ、スマホサミット | 6団体 | 32名 |

参加団体一覧	
神戸市立太田中学校	兵庫県立赤穂高等学校
三田市立狭間中学校	関西学院高等部
兵庫県立尼崎高等学校	淡路市ICTクラブ協議会

事業内容

POINT 1

■青少年の主体的な取組

ワークショップやスマホサミットを通じてネット利用について考え、各学校に持ち帰り実践することで、自らが主体的に取り組むことの楽しさや重要性を認識できる機会となった。

POINT 2

■大人と子どもがともに考える

スマホサミットでは、大人と子どもと一緒に公開討論会を行い、子どもたちの大人に対する正直な意見を引き出すことができた。「大人対子ども」の構図ではなく、「大人と子ども」で一緒に考える重要性を共有できた。

POINT 3

■YouTubeライブ配信

より多くの方がスマホサミットに参加できるようYouTubeライブ配信を実施。会場観覧とあわせることで、現場のリアルな声を拾いながら、幅広い啓発につなげた。

1 第1回ワークショップ

以下の内容について、グループ討論を実施した。

(1) ひょうごケータイ・スマホアンケート

兵庫県では令和4年7月に、県内の子どもたちのスマートフォン等の利用状況、日常生活への影響やインターネットの夢中具合を調査する「ひょうごケータイ・スマホアンケート」を実施した。そのアンケート結果を題材に各班で討論した。携帯所有率や依存傾向にある割合が示されると、驚きの声が出る場面も多くあった。

(2) インターネットの良いところ・悪いところ

今やスマホ等を持っていることが当たり前となっている。とても便利な物である一方で、上手な使い方をしないとトラブルや犯罪に巻き込まれるきっかけとなることもある。そこで、ネットやスマホの良いところ、悪いところをテーマにグループで討論し、その結果を全員に向けて発表した。

良いところ

- ・すばやく、色々な情報を調べることができる。
- ・好きなことを共有できる。
- ・教科書やノートとして使え、荷物が少なくなる。
- ・世界中の人とつながることができる。
- ・同じ悩みを持つ人が見つかる
- ・いつでも、どこでも使える。
- ・気持ちのはけ口になっている。
- ・他人の意見が分かり、参考にできる。
- ・たくさんの娯楽があり、リラックスできる。

悪いところ

- ・個人情報特定されるなどの情報漏洩が心配。
- ・睡眠や勉強の時間がなくなる。
- ・詐欺や課金、偽情報などのトラブルに巻き込まれる可能性がある。
- ・視力低下や首の痛み、姿勢が悪くなるなどの身体的な影響がある。
- ・依存性が高い。



2 第2回ワークショップ

第1回ワークショップ後に、各団体で考えたネットやスマホに関する提言（①保護者（まわりの大人）へ、②先生へ、③企業へ、④行政へ、⑤自分たちへ）を全員で共有するとともに、スマホサミットでの役割分担や打ち合わせを実施した。

保護者（まわりの大人）へ

- ・制限ばかりせず、まず子どもの話を聞いて。
- ・勝手にルールを決めず、納得できるルールづくりをしよう。
- ・家族の交流の機会をしっかりとつくって。
- ・ネットやスマホのことをもっと理解して。
- ・世代の差を否定せず、SNSの仕組みを理解して。
- ・スマホで勉強していることも理解して。

企業へ

- ・安心できるネット環境にして。
- ・人を傷つける発信ができないようにして。
- ・動画やゲームの注意喚起をネットに流して。
- ・ネットの危険を呼びかけるポスター、看板、広告を作って。
- ・複雑すぎてわからないので、利用規約を簡単にして。

行政へ

- ・学校のWi-Fi環境を良くして（よく途切れる）。
- ・GIGA端末のルールを見直して（使用時間、ゲーム）。
- ・子どものネット問題を先生任せにしないで。
- ・スマホサミットのような他校との交流や検討会を増やして。
- ・トラブル対応の講習会を学校で実施して。
- ・若者の意見を政策に取り入れて。
- ・自治体の取り組みをSNSで発信して。

自分たちへ

- ・スマホに逃げず現実に向き合おう。
- ・家族や友達との時間を大切にしよう。
- ・スマホやネットを学習、進路に役立てよう。
- ・子どもの間に正しいネット活用ができるように。
- ・自分自身のネットルールをデザインしよう。
- ・ネットとリアルのバランスを大事にしよう。
- ・自制心を持ってICT活用を。
- ・SNS投稿など情報発信には慎重になろう。

先生へ

- ・スマホやタブレットなどのICT機器をもっと授業で有効活用して。
- ・生徒が気軽に相談できるようにして。
- ・ネット依存についてもっと考えて。
- ・制限が強すぎて閲覧できないサイトが多い。
- ・ルールにばらつきがあるので統一して。

提言 団体名（ ）

1. 保護者へ（まわりの大人へ）

- ①
- ②

2. 先生へ

- ①
- ②

3. 行政へ

- ①
- ②

4. 企業へ

- ①
- ②

5. 自分たちへ

- ①
- ②

提言作成シート

3 スマホサミットinひょうご2022

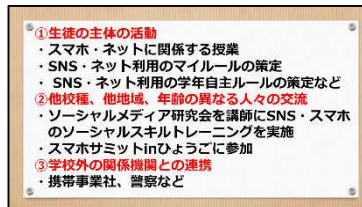
(1) ワークショップ参加団体の活動報告

各団体で力を入れている取り組みを発表した。

神戸市立太田中学校

生徒主体の活動

- ・ ネット・スマホに関係する授業
 - ・ SNS・ネット利用のマイルールの策定
 - ・ SNS・ネット利用の学年自主ルール策定など
- 他校種、他地域、年齢の異なる人々との交流
- ・ ソーシャルメディア研究会を講師に SNS・スマホのソーシャルスキルトレーニングを実施
- スマホサミットinひょうごに参加
- 学校外の関係機関との連携
- ・ 携帯電話事業者、警察など



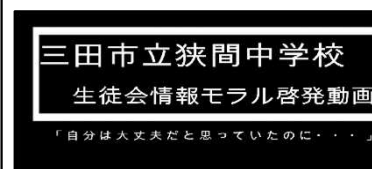
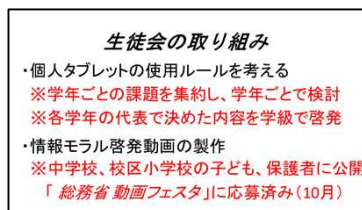
三田市立狭間中学校

学校での取り組み

- ・ 新入生情報モラル授業
- ・ 校内情報モラルアンケート
- ・ 各学級での情報モラル授業
- ・ 情報モラル講演会

生徒会での取り組み

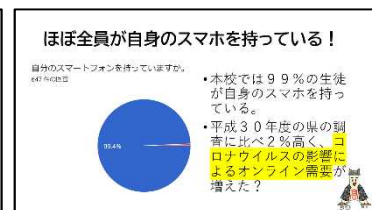
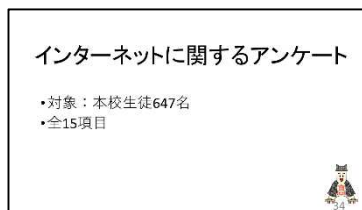
- ・ 個人タブレットの使用ルールを考える
- ・ 情報モラル啓発動画の製作



兵庫県立尼崎高等学校

インターネットに関するアンケート

- ・ スマホ所持率
- ・ スマホ使用時間
- ・ 一番使うアプリ
- ・ 就寝時間
- ・ 授業中、寝てしまうか?
- ・ トラブルに巻き込まれた経験は?
- ・ 家庭でのルールづくりは?

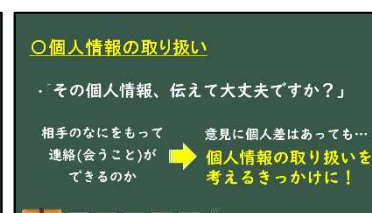


兵庫県立赤穂高等学校

Let's design your own rule!!

～見つめ直す力～

- ・ 個人情報の取り扱い
「その個人情報、伝えて大丈夫ですか?」
- ・ 使用時間・場面
「スマホの使用時間を把握できていますか?」
- ・ 健康的な生活
「健康的な生活ができていますか?」



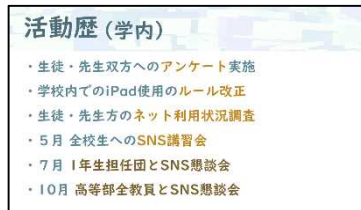
関西学院高等部

学内での活動

- ・生徒・先生双方へのアンケート、ネット利用状況調査実施
- ・学校内でのiPad使用のルール改正
- ・全校生へのSNS講習会
- ・1年生担任団、高等部全教員とSNS懇談会

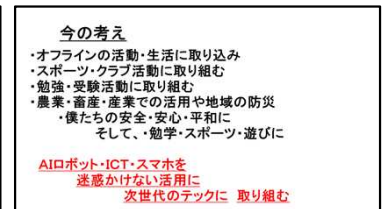
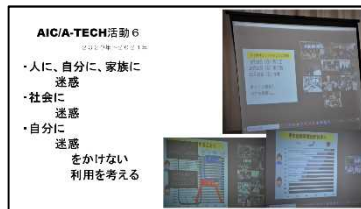
学外での活動

- ・著書「こどもスマホルール」対談掲載
- ・18歳成人を考えるWebシンポジウム参加
- ・NEW EDUCATION EXPO 2022
- ・青少年の安心安全なインターネット利用に関するシンポジウム参加
- ・ICT夢コンテスト2022 優良賞受賞



淡路市ICTクラブ協議会

- ・幼稚園・小学生の時からAIロボット・ICTに親しみ、慣れる
- ・ひとのため・自分のため、次世代のAIロボット・ICTの活用を支援する
- ・次世代の社会活用に私たちが応用し、活用する
- ・大学・高専・企業から学ぶ
- ・迷惑をかけない利用を考える
- ・次世代のテックに取り組む



(2) 「人とつながるオフラインキャンプ2022」実施報告

オフラインキャンプでメンターを務めたソーシャルメディア研究会の大学生2名と実際の参加者5名が登壇した。参加者は「自分のやりたいことや好きなことを見つけることができた」、「考え方を考えることができた」など自分の言葉でキャンプの感想を伝えた。また、神戸親和女子大学の金山教授より、「日常生活の改善、学校への登校、家族の関係などに効果があること」、「本キャンプ後からフォローアップキャンプの過ごし方がうまくいけば、1年後から3年後までの効果が期待できること」などオフラインキャンプのネット依存への有効性に関する報告があった。



(3) ワークショップ参加者等による公開討論会

ひょうごケータイ・スマホアンケートの結果及び参加者からの提言を題材に公開討論会を実施した。公開討論会では大人と子どもが一緒に考えるために、保護者代表として神戸市中学校PTA連絡協議会、教員代表として引率教員、企業代表としてTikTok Japan、行政代表として県関係者をパネリストに迎え、コーディネーターの竹内准教授の進行のもと、それぞれの視点に立った活発な意見交換が展開された。

ア 参加者からの意見

- ・自分たちと保護者とでは置かれている状況が全く違うのに、同じものさしに当てはめて注意するのをやめてほしい。
- ・納得できるルールにしてほしい。
- ・スマホがあることを前提に大人と子どもで良いことも悪いことも言い合える関係にしたい。
- ・世代を超えた交流の機会が必要。
- ・せっかくの便利なツールだから、学校の先生等の大人に制限されるのではなく、自分たちで制限できるように自制心を持つことが大切。
- ・ネットやスマホによって、家族や友人との時間が失われている。
- ・子どものうちに正しいネット活用ができるように知識をつける。
- ・ネットとリアルのバランスを大切に。

イ パネリストからの意見

- ・子どもの方が大人よりずっと考えている。対策も考えている。自分自身がどう使いたいかを考え、実行すること。それを周りに伝えることをやってほしい。
- ・ここにいる人は大丈夫。周りを巻き込んで、社会全体で共有できれば良い。
- ・一人で悩むと手遅れになることが多い。誰でもよいので相談してほしい。

(4) ワークショップ・スマホサミットを終えての感想

- ・高校生の自分でも知らないことがたくさんあることが分かり、高校生が知らないことが親世代に伝わっているとは思えないので、こういう場は大切。高校生と中学生でも大きな違いを感じた。
- ・同級生（自分たちの学校）から同世代（他の学校）へと交流や議論を広げることができて新鮮だった。学校や学年を超えてこそ得ることができる意見や発見があった。これを持ち帰って広げたい。
- ・今日一番印象に残ったのは、自制心を持つこと。自制心を身につけることは簡単ではないが、周囲の大人の支えもありつつ、自制心を身につけることができれば、大人からの見方が変わるのではないかと思った。



青少年のネットトラブル防止大作戦推進会議

(公財)兵庫県青少年本部では、「青少年のネットトラブル防止大作戦」を展開し、青少年が安全に安心してインターネットを利用できるよう、青少年愛護条例の趣旨を踏まえ、様々な主体が連携・協働して、青少年等による主体的なインターネット利用のルールづくりの支援等を推進するとともに、インターネット利用に関する県民のさらなる関心喚起を図るため、保護者等を対象としたネットトラブルに関する学習及び啓発を強化している。

この目的を達成するための具体的な取組方策等を検討するため、関係機関・団体等で構成する推進会議を設置しており、本事業の実施にあたっては、事業検討委員会に位置づけ、事業内容等の検討を行った。

1 構成団体等

兵庫県立大学環境人間学部准教授 竹内 和雄 氏【座長】	日本放送協会神戸放送局
神戸親和女子大学発達教育学部教授 金山 健一 氏	(株)神戸新聞社
神戸大学大学院医学研究科特命教授 曾良 一郎 氏	(株)朝日新聞社阪神支局
幸地クリニック	(株)ドコモCS関西神戸支店
兵庫県立神出学園	(一社)いえしま自然体験協会
(一財)法人野外活動協会	兵庫県教育委員会事務局教育企画課
淡路市ICTクラブ協議会	神戸市教育委員会事務局学校教育部学校教育課
あわじ次世代テック推進会	兵庫県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課
兵庫県PTA協議会	兵庫県警察本部生活安全部少年課
こころ豊かな人づくり500人委員会阪神南OB会	兵庫県県民生活部男女青少年課
阪神南青少年本部	(公財)兵庫県青少年本部【事務局】
(株)サンテレビジョン	

2 会議開催

- 第1回 日時：令和4年5月16日(月) 9:30～11:30
場所：兵庫県学校厚生会館3階西会議室
内容：事業概要、情報交換 等
- 第2回 日時：令和4年10月17日(月) 9:30～11:30
場所：兵庫県学校厚生会館3階西会議室
内容：第1回ワークショップ実施結果 等
- 第3回 日時：令和5年2月20日(月) 9:30～11:30
場所：兵庫県学校厚生会館3階西会議室
内容：第2回ワークショップ・スマホサミット実施結果 等

スマホサミットinひょうご2022を終えて

コーディネーター／推進会議座長
兵庫県立大学環境人間学部 准教授 竹内 和雄

1 第9回を終えて

スマホサミットinひょうごは9回目の開催となった。コロナ禍3年目の開催であったので、さまざまな発見と収穫があった。

この種の問題は、大きな転換期を迎えている。子どもたちは、学校で文房具として、情報端末を活用している。そういう状況にあっては、もはや「禁止、制限」はできないのは当然である。

しかし、子どもとインターネット問題は、放置できない状況である。「ネット依存」「ネット上の誹謗中傷」「ネット炎上」「ネットいじめ」など、マスコミはこの種の言葉であふれている。子どもたち自身がこの問題に深く切り込んだ、この問題は重要である。

2 子どもたちの話し合いから見えてきたこと

今年度も、ワークショップを経て、スマホサミットを実施した。その過程で見えてきたことを4つの観点から書いておきたい。

①過度な利用への警鐘

子どもたちが最も強い危機感を持っているのは、過度な利用である。「自分たちはネットを使いすぎている」という発言が多く聞かれた。

数年前までは、「大人が過度な利用の制限を促し、子どもが抵抗する」というのが基本的な状況であったが、近年、子どもたち自身が警鐘を鳴らすようになった。「このままでは自分たちはダメだ」と明確に発言する子どもが増えてきたのが印象的であった。

②大人への関与要請

驚いたことは、「大人にもちゃんと関わってほしい」という声が続出したことである。「自分たちでは限界があるので、一緒に考えてほしい」と言う。さらに「自分のことは棚に上げて、偉そうに言わないでほしい」という声まで聞かれた。保護者がネットばかり使っていて、その改善が前提だというのだ。

この問題は、子どもだけの問題ではなく、社会全体の課題なのだと強く感じた。

③大人のスタンス

こういう状況なので、大人が一方向的に決めるのは論外である。大人と子どもと一緒に向き合うことが重要であるが、大人も自分たちのネット利用について見直さなければならないだろう。本丸は、もちろん子どもたちのネット利用の改善である。そのためにどういう方策が必要か、有効か、そのあたりについて、大人もしっかり関わるのが肝要である。

④関わる大人

子どもたちの要望は多岐にわたった。ルールづくりとしての「保護者」。犯罪被害防止としての「警察」。トラブル回避としての「企業」。教育の必要性としての「教師」。政策への関与としての「自治体」。そういう様々な立場の大人の関与が必要である。誰かの責任を追及する時代ではなくなったということだろう。

3 今後に向けて

今年度のあり方は、ある意味、理想型だと感じているので、基本的には、今年度の方向で来年度も進めていきたいと考えている。特に以下の点を強調しておきたい。

①ルールづくりの体制作り

話し合いに終始するだけでは埒があかない。議論の先に何らかの具体的な解決策の提示が求められる。現状はルールづくりだろう。家庭、学校で地道に取り組んで行く段階がまず必要。その上で、学級、学年、学校単位で、ルール等について話し合う時間が必要である。子どもたちだけではこういう設定は難しいので、まず学校が整備する段階だろう。

しかし、とはいえ、学校も十分な知識も経験もないのが現状。自治体レベルで、モデル提示やスキル伝達等ができれば一気に進む可能性が高い。このサミットがそういう役割を担うことができれば、モデル例になり得る。

②子どもの意見表明権

子どもの権利条約等、子どもの意見表明権をうたったものは多い。しかし、日本ではなかなか実現できていない。そういう風土がなかったのが、実際は難しい。私は、昨年、「生徒指導提要」（文部科学省）の改訂に関わったが、まさに国をあげて子どもたち自身に意見表明させようという機運がある。ネットの問題は、子どもにある程度アドバンテージがあるし、兵庫県の条例「何人も青少年のインターネットの基準づくりを支援しなければならない」との整合性もある。長くサミットに取り組んできた兵庫県がこの分野をリードしていく必要を感じている。

GIGA端末を使って、小学校1年生が情報端末を活用する時代になった。子どもとネットについては、歴史的転換期である。今、子どもも大人も納得できるルールづくりが急務である。



事業成果と今後の展望

1 事業成果

- ・ワークショップでは、県内の子どもたちのスマホ利用状況等を調査したアンケートを題材にすることで、ネット・スマホの問題が身近な自分たちの課題であるという認識をしてもらうとともに、中1～高3までの学年や学校の垣根を越えた参加者で討論することで、多様な考えを共有する機会となった。
- ・スマホサミットの取組発表では、これまでの取組やワークショップを踏まえたこれからの取組など各団体で力を入れていることを発表し、それぞれの取組を発信する場となった。
- ・スマホサミットの公開討論会では、参加者が事前に考えたネット・スマホに関する提言を題材に、大人と子どもがそれぞれの立場から議論をし、一緒になってより良い方向を考える機会となった。

2 課題と今後の展望

- ・ワークショップの参加者は生徒会や情報に関する委員会に所属する生徒が多く、会の中で積極的に発言するなどして取り組んでいたが、この事業に参加していない生徒へ意識や取組をどのように広げていくかを考える必要がある。
- ・スマホサミットの公開討論会のように、子どもたちだけでなく、大人と一緒に考える取組を広げていく必要がある。
- ・子どもはどのようにネットやスマホのことを考える機会があるが、保護者にはほとんどないため、啓発に取り組む必要がある。
- ・家庭における保護者と子どもの話し合いによるルールづくりや各学校におけるネットトラブル防止に関する取組を引き続き推進する。



ひょうごネットトラブル防止ワークショップ
スマホサミットinひょうご2022
報告書

令和5年3月

公益財団法人兵庫県青少年本部企画部（県民運動担当）
〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1 兵庫県県民生活部男女青少年課内
Tel : 078-362-3142
E-mail : danjoseishounen@pref.hyogo.lg.jp
Web : <https://seishonen.or.jp/honbu/>